

特別寄稿

現代チベット体験記

おおさき かなこ
大崎 佳奈子

J P 労組・企画局

中国国内のチベット（チベット自治区、青海省、四川省、甘肅省、雲南省のチベット族自治州及び自治県）は、中国の約23%の面積を占める。2000年の統計では中国国内のチベット人（中国国内では「チベット族」と呼ぶが、ここではチベット人とする）は約540万人、主に海拔3000メートル以上の高原地帯で暮らす民族だ。昔の秘境も今では鉄道、飛行機、長距離バスで気軽に行けるようになった。旅行ブームの中国では、都会からマイカーでチベット旅行を楽しむアウトドア派も増えた。長い夏休みに沿海部からラサまで自転車で横断、という冒険好きな学生も一人や二人ではない。

以前、四川省と甘肅省のチベット人家庭にお世話になったときのこと。泊めてもらった家は雪山に囲まれ、夜空に満天の星が輝く小さい村にあ

った。家の中は清潔かつ質素で、必要最低限の物しかない。冬でも暖房は薪ストーブ1つのみ。地下水を汲み、冷蔵庫も下水道もトイレもない。便利な日本に比べ、ないないづくしの家にはさすがに驚いた。でも夕食後にストーブを囲み、家族の団らんに加えてもらった思い出は忘れられない。貧しくても心は豊か、家族みんなが楽しく暮らす幸せ、が存在する場所だった。

都市に近いチベット文化圏のためか、訪問したチベット人家庭では中国文化が浸透していた。各家庭にチベット人の主食であるツアンパ（青裸麦の粉。通常ミルクティーやバター茶を加え団子状にこねて食べる）は常備されているが、緑茶をよく飲み、辛い四川料理も大好物。テレビではチベット語チャンネルも中国語のテレビドラマもよく

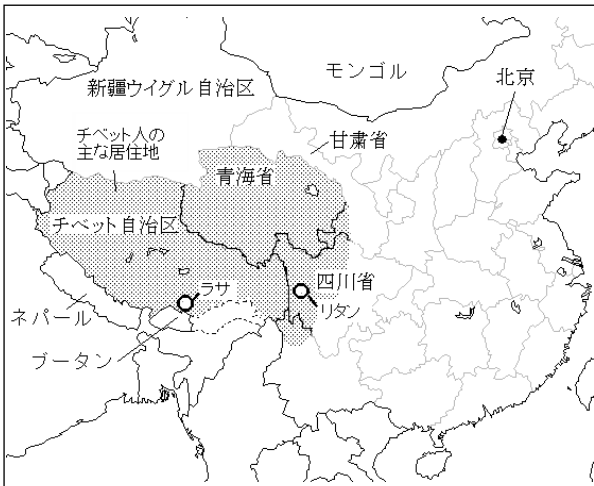


ポタラ宮（ラサ）



ジョカン寺の前で五体投地をする人々（ラサ）

チベット人の主な居住地とラサ、リタン



見る。冬は袖が長く、内側に毛皮を張ったどてら風の民族衣装をカッコよく着こなすが、日常生活では多くのチベット人は動きやすい服装である。

一方、信仰に対する意気込みは半端ではない。寺院の前では無心に五体投地（両手を合わせ地面にうつぶせになるお祈りの仕方）をし、朝に夜に寺院の周囲を時計回りに歩く老若男女のチベット人は絶えることがない。携帯型マニ車（中に経文が入っていて回すとお経を唱えるのと同じ御利益がある）は、お寺に行かなくてもお祈りができる、お年寄り向け便利アイテム。チベット人は日本人を同じ仏教徒と思っているようだが、信仰への気合が違いすぎて、日本人としてはとても恥ずかしい気分になってしまう。

チベット人家庭には2軒ほどお邪魔したが、家



テレビの上の仏壇（四川省）

には仏間や仏壇があり、ご当地の活佛（高僧の生まれ変わり）の写真、造花や経典を供え、特に清潔にしていた。ある有名寺院の活佛に祝福してもらったときのこと。外国人の目に活佛は10歳くらいの賢そうな男の子にしか見えないが、チベット人は一心不乱に五体投地し、活佛に手を合わせ祈っていた。きっと拝むだけですごい御利益があるのだろう。

チベット人は輪廻転生を信じ、現世で他者のために善行し功德を積み、よりよい来世を迎えることを日々願っている。物乞いがいれば小銭を渡し、見知らぬ外国人にも基本的に親切なのは、仏教の教えを真面目に実践しているからである。仏教では他者への寛容さ、慈悲の心も重要な教えの一つ。そして現世では誰もが平等に幸せに生きる権利を持つと考えている。民族間の争いが絶えない現代で、他民族を憎む代わりに彼らの幸せを祈るのだから、チベット人の度量の大きさははかりしれない。

そんなチベット世界だが、四川省のチベット族自治州を中心に相次いで焼身自殺の発生が報じられている。2011年3月から現在まで26人ものチベット人僧侶や一般人が自殺を図っている（2012年3月14日、毎日新聞朝刊）。

チベット人も当然命を大切にしている。チベット仏教では自殺を罪悪視しており、人が怒りや恐



仏像（リタン）

怖に駆られて自ら命を絶ったならば、その後の500生は人の体に生まれ変われないと言われるそう。亡くなった人々の生前の写真は、みな素朴で穏やかな表情をしている。なぜ敬虔な仏教徒である彼らが焼身自殺という悲惨な最期を遂げるのか、どんな心の苦しみを持っていたのか、理解に苦しむ。

チベット人たちが求めているのは、ほんの少しの自由ではないかと思う。それは欧米諸国ほどでなくてもいい、普通の中国人並みの自由。例えばパスポートを申請したら通常発給される自由。母語（チベット語）を勉強し母語を活かして仕事に就ける自由。監視カメラのない故郷で、家族揃って仲良く、平和に暮らす自由。そして、ほんの少しの宗教の自由、例えば仏教が生まれた国、インドに普通に行ける自由や、観音菩薩の化身と信じるダライラマの写真を仏壇に飾る自由も含まれるかもしれない。



お参りに来た人々（リタン）



少年僧（リタン）

写真と本文は関係ありません。

参考文献

リンチェン・ドルマ・タリン著、三浦順子訳『チベットの娘 貴族婦人の生涯』中央公論新社
デイヴィッド・スネルグローブ、ヒュー・リチャードソン著、奥山直司訳『チベット文化史』春秋社